

「事業名：産学官民の連携による「ロハスコミュニティ」の構築と実装」 2022年度補助事業の実績・成果

日本大学 連携市町村：富岡町、葛尾村

連携市町村との協定締結日：葛尾村 平成27年5月15日 締結 富岡町 令和3年10月26日 締結

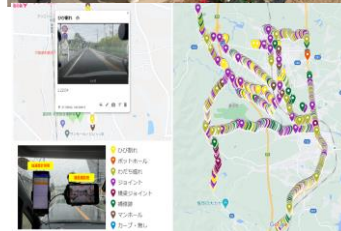
現地拠点：福島県双葉郡葛尾村大字落合字西ノ内50葛尾村立葛尾中学校内

事業のポイント

「ロハス工学」の研究及び国が提唱する「ライフイノベーション」と「グリーンイノベーション」を包含し、連繋する「ロハスイノベーション」を目指し、それを実装する中で人材を育成し活動するフィールドの場、すなわち産学官民の連携による「ロハスコミュニティ」の構築と実装を行い、5年間を通して浜通り地域等でイノベーションを生み出す高度な人材の長期的な教育・育成の基盤を構築することを目的とする。

今年度の活動実績

- 各種イベントを通じた復興交流館「あぜりあ」の利活用の促進を図った。
- 富岡町にてまちづくり学生フィールドワークを実施し課題抽出を行った。
- 夜ノ森の拠点づくりについて、今後の課題を整理し樹木を活用した提案を行った。
- 富岡町内道路の簡易点検・診断技術の構築を行った。
- 住民と学生の協働により、「ロハスの花壇」を活用した汚水の利活用を試みた。
- ドローンによるイノシシの生態調査を実施し、人とイノシシの共生の視点から対策方法を検討した。
- 「鳥獣被害対策ネットワーク会議」2回の会合を行い、シンポジウムを開催し各大学と情報の共有を行った、また課題の共有や今後の取組方、進め方について話し合った。



今年度の成果

ものづくりワークショップ、イベントを行うことで関係者はもちろんのこと地域住民にとっても愛着がもてる活動となった。本学学生にとっても地域を考えるきっかけとなり意識の醸成につながった。富岡町フィールドワークを実施し、震災の教育及びこれからのまちづくりの担い手育成につながった。スマートフォンを用いた簡易路面性状計測結果に基づいて福島県双葉郡富岡町における路面性状マップを構築した。樹木などを活かした地域づくりでは夜ノ森の拠点づくりについて、今後の課題を整理し樹木を活用した提案を行い、今後の整備方針の方向性を提示した。ロハスの花壇等による環境整備や幅広い環境学習では「ロハスの花壇」による汚水の利活用や葛尾村住民との植栽活動の協働により、住民のグリーンインフラの理解や周知を拡大した。イノシシなど野生鳥獣の生態調査では引き続きイノシシの生態調査及びイノシシの生息域周辺の植生調査が必要であることがわかった。鳥獣対策ネットワークの運営と展開では各連携している大学、福島県、環境省等の人的ネットワーク及び情報共有の構築ができ、プラットフォームを整備できた。また、県内の取組のみではなく県外の取組についても共有することができた。